



第2回京都府南部特別支援学級（視覚障害）等担任向け研修会 報告

日 時 平成30年11月20日（火）14:00～17:00
場 所 京都府スーパーサポートセンター SSC ラボ
テ ー マ 「視覚障害のある児童生徒の自己理解～つきたい力と手立て～」
指導助言 府専門家チーム 森上 和 氏

6月に引き続き、京都府南部地域の見えにくさのある児童生徒を指導しておられる先生方を対象に第2回目の研修会を行いました。当日は、小学校から3名、特別支援学校から1名、盲学校から2名、総合教育センターから1名の先生が参加してくださいました。

協議・交流では、担任している児童生徒の、現段階の自己理解に関わる力について9項目に分けて評価し、グラフ化しました。その後、卒業時までどのような自己理解に関わる力をつけてほしいか出し合い、最後に、その力をつけるための手立てを全員で考え、付箋に書き出しました。

先生方の中からは、「自分の見え方を周りに説明できるようになってほしい」「身近な友達の顔や名前を覚えてほしい」等の対人関係に関わる力を伸ばしたいとの意見が多く見られました。そのためにどのような手立てが考えられるか、全員で意見を出し合った結果、具体的な案がいくつも出てきました。

また、指導助言からは、他者に自分のことを伝えられるようになるためには、まず自分の見え方を知ることから始まるといった、段階的に指導が必要であるということや、「～したいという意欲」が、支援機器を活用しようとしたたり、周りに援助を求めたり、自分から行動できる原動力になっているとの話を聞くことができ、学びを深めることができました。



【受講者の感想】

「視覚障害のある児童生徒の自己理解」について、担任している児童の実態を見つめ直し、具体的な手立てを考えることができる、よい研修会でした。

視覚障害のある児童の担任の先生となかなか話す機会がなかったので、とても勉強になりました。とても共感することもあり、協議した手立てもしてみようと思いました。

自己理解、障害受容というのは本当に難しい課題で、自分と向き合うためにどうしていったらいいのか悩む一方です。今回、いろいろな先生からのお話をきいたり、森上先生から指導助言をいただいたりして大変勉強になりました。難しい内容ですが、一度は交流しないといけない内容かなと思いました。

なぜ自己理解が必要なのかということ、具体例とともに説明していただき、すごく分かりやすかったです。